

令和6年大会アピール

本日、令和6年「北方領土の日」を迎え、我が国固有の領土である択捉島、国後島、色丹島および歯舞群島、すなわち北方四島の返還実現を目指し、「令和6年北方領土返還要求全国大会」を開催しました。大会の様子はインターネットを通じて配信され、北方領土問題の解決を求める日本国民の訴えを国内外に幅広く訴えることができました。

78年前、北方領土がソ連によって不法占拠されたまま今日に至っています。決して許されることはありません。今、北方領土問題は混迷を深める国際情勢の影響を受け、日露間の平和条約交渉、北方四島交流事業、墓参など様々な取り組みが一方的に中断され、外交交渉再開の兆しすらもみえません。北方領土問題は非常に厳しい状況に置かれています。

戦前北方四島に居住していた元島民の方々は「故郷の島に戻る日」を待ち続けていましたが、願いが叶わぬまま次々と亡くなられています。元島民の高齢化は深刻であり、一刻の猶予ありません。人道的観点からも、現在中断されている元島民による北方墓参の再開を強く望みます。

私たちはこうした厳しい情勢の中、北方領土返還に向けて地道にあらゆる活動を続けております。北方領土問題を解決に向けて前進させるには、これからも歩みを止めることなく一丸となって訴え続けることが不可欠です。

大会では、北方領土問題の解決に向け、官民一体となり、これまで以上に国内外に向け広範な活動を展開し、返還要求運動に取り組む意思が確認されました。

私たちは、北方四島の返還実現を目指し、次のとおり決意を表明します。

記

- 一．私たちは、北方四島の返還実現を目指し、日露両国間の関係改善と平和条約締結に向けた交渉の再開を強く求めます。
- 一．私たちは、人道問題として北方墓参の早期再開を強く求めます。
- 一．私たちは、署名活動をより一層推進します。
- 一．私たちは、全国の仲間と手を携え、あらゆる機会を活かし、北方領土問題を発信し、北方四島の返還こそが我が国とロシアとの真の友好と信頼関係を築き、ひいては世界の平和に寄与するものであることを訴えます。
- 一．私たちは、北方領土に残存する日本の施設などの保存に努めます。

令和6年2月7日北方領土の日

令和6年北方領土返還要求全国大会